

創流三十周年記念全国縦断舞踊公演

榎善勸二郎此会



御挨拶

日本舞踊 榎若流

宗家 榎若勸二郎

盛夏の候 皆様方にはご繁忙の所 榎若勸二郎の会にお越し頂きまして厚く御礼申し上げます

ご当地の皆様方に舞台をご覧頂きますのは今回が初めてでございますが 仙台に私のお稽古場を開設致しましてより三年有余 皆様方の絶大なるご後援とご声援によりまして日増に発展の道を歩んでまいりました このたびは創流三十周年の記念事業の一環として全国縦断リサイクルを企画制作致しました 東京・大分・仙台そして十一月の大阪と各地で数回の公演を予定致しております 本日の公演を通じ ご来場の皆様方に伝統舞踊の醍醐味をぜひご満喫頂きますよう最高のスタッフ陣を配し素晴らしい舞台づくりに努める所存でございます 何卒 皆様方には終演迄ごゆるりとご観賞賜りましてご声援下さいますようお願い申し上げます 次第でございます

平成二年七月



榎若勸二郎 振付

長唄
風流船揃ふうりゅうふなぞろい

立方 榎若勸二郎

隅田川（東京）の船遊びの風景を描いたもので安政三年二月、二代目杵屋勝三郎の作曲になるものです。内容は船の由来にはじまり、のどかな春の海、そして隅田川の船遊びの風景と続き、特にこの曲は江戸時代の船遊びの情調がよく描かれた名曲として踊り分けの難しい舞踊として舞踊会等ではよく素踊りとして踊られております。

高沢松風 作詩
三世富士松亀三郎 作曲
室町京之介 作詩
四世富士松亀三郎 作曲
榎若勸二郎 構成・振付

新内
唐人お吉とうじんおきち

お吉 榎若勸二郎

榎若勸二郎の芸風と相まって勸二郎舞踊極付の作品がこの唐人お吉です。
新内「黒船お吉」を土台に今から十年程前に作家室町京之介氏に脚色を依頼、演出、振付榎若勸二郎によって完成されましたのが本日の「唐人お吉」です。幾度となく上演され、洗練された舞台は皆様の共感を得るものと思えます。
「きょうも行くお吉哀しや下田港に降る椿」

長唄
英執着獅子はなぶさしゅうちやくしし

傾城 榎若勸二郎
後に獅子の精

四天坂東 薪次郎
四天坂東 喜代志

「石橋もの」「獅子もの」では、「相生獅子」「枕獅子」と共に最古のもの。後世に出来た「石橋もの」は、大てい勇壮な男性の獅子で、能うつしの狂いを見せているが、この曲は前シテが遊女姿で手獅子を持って踊り、大宮人及び名取り里の返しづくしのクドキ、「朝な夕な」「それを疑う潤かいな」の事おいと艶はすばらしい曲で振りも又、眼目になるところです。後シテは肌ぬぎで牡丹のついた頭を冠り、クルイの振りがあって終ります。四天を二人使つての華やかな舞台となります。

初演は先年東京の国立劇場のリサイタルで好評を博し、大阪の榎若会と本年二月の東京国立大劇場創流三十周年記念公演二日間の大舞台での上演で三度目の所演になります。

■長唄連名

和歌山 富司郎

芳村 金四郎

鈴木 崇晃

三味線 鈴木 勘容

村尾 慎三

藤坂 義一

■新内

弾き語り 新内 仲三郎

上調子 新内 勝次郎

■鳴物

堅田 喜三久

住田 長十郎

藤舎 清鷹

望月 慎一

外池 真裕美

鳳声 勲

大道具 仁木 大道具

照明 大橋 宏康

” 東北共立照明

音響 電力ホール音響部

小道具 松竹小道具

衣裳市川衣裳

かつら 寿々喜かつら

床山中

顔師 小山 拓賜

後見 高橋 敏広

” 中村 昇三郎

つけ打 樗 沢 勇

狂言方 渡 辺 正二

進行事務 榎 若 勸助

振付 榎 若 勸二

演出・制作 榎 若 流文芸部

榎 若 事務所

主 催 宗家 榎 若 勸二 郎

仙台支部
宮城県仙台市青葉区小田原5-3-40
アルファ仙台110号
TEL 022-261-1308

杜の都仙台に宗家教室開設!!

榎若宗家 仙台支部教室

宗家直接指導による素晴らしい舞踊の習得

—入門・お問合せは随時受付—

JR仙台駅より徒歩10分

宮城県仙台市青葉区小田原5-3-40 アルファ仙台110号

電話 022(261)1308番 東京本部受付 電話 03(672)8825

櫻子

平成二年七月七日(土)

開演 午後二時

仙台 電力ホール